

2020年度(令和2年度)用
自己点検・自己評価報告書

学校法人 水野学園
専門学校ヒコ・みづのジュエリーカレッジ
自己点検・自己評価委員会

◆評価項目の現状および自己点検・課題・今後の改善策等

項目 1	教育理念・目的・育成人材像等	
【現状】	1	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 教育理念は、学生ハンドブックに掲載し、年初のオリエンテーションで配布・学生周知が進められている。前年度から具体的検討が行われていた3つのポリシー(ディプロマ、カリキュラム、アドミッション)をまとめ、HPにて公表した。
	2	学校の将来構想を抱いているか 毎月2回実施される「経営会議」において、構想および検討がなされ、両校を通じ社会人教育の充実を図っていく必要性が話し合われた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	3つのポリシーに関してはさらなる学生周知が必要である。学生たちが身近に触れる機会が少なく、学校全体に文言として敷衍しているとは言いがたい。しかしながら、教員管理職者間では深く理解されており、カリキュラムにおいては教育文化として浸透しているとも言える。今後はそれらが軌道上にあるということを、年度末に確認する機会を設ける必要がある。	

項目 2	学校運営		
【現状】	3	教育理念・目的等に沿った運営方針を定めているか	学校の理念、目的、育成人材像をふまえ、「経営会議」にて運営方針を定めている。設定された運営方針は、各部署長を通じ、全教職員に周知されている。
	4	中長期的な事業計画を定めているか	学校の事業計画は学校長を中心に定めている。変動する学生数、学費収入、教室使用状況、支出などを鑑み、人事計画・人件費計画は、10年後までを見据えた事業計画を定めている。
	5	運営組織や意思決定機能は明確化されているか、また有効に機能しているか	理事長、学校長、各部門長により、毎月2回「経営会議」を実施し、学校運営全般についての情報の共有ならびに意思決定を都度実施している。今年度は、コロナ禍により集合しての「教職員会議」は見送ったが、メールや動画配信などで情報の共有を行った。
	6	人事・給与に関する規定等は整備されているか	人事・給与に関する規定「就業規則」「給与規程」等、自由に閲覧できる環境を整えている。“採用、試用期間、休職等”については「就業規則」に記載され、“昇給、各種手当、賞与等”については「給与規程」にて明確に定め、適切に運用している。
	7	情報システム化等による業務効率化が図られているか	専任の情報システム担当職員を置いている。各部署のデータを共有し、学生サービスおよび業務効率を高めるべく、システムを構築・運営している。学生管理においては株サーバネットの「School Leader」を利用し、大幅な業務効率化が図られている。コロナ禍において教職員の在宅勤務を可能にすべく、セキュリティを兼ねたオンラインシステムを導入した。通勤による感染防止に取り組んだ。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>上記の通り、しっかりと実行されていると評価できる。</p> <p>コロナの影響をいち早く察知し、その対応を急いだ。その結果、アプリによる学生連絡網の確立、オンライン授業、帰国困難者の相談、進級卒業制度の見直しなど環境の変化に合わせた対応を学校全体で行った。また、オンライン授業への移行、今後のインフラ拡充のための予算設定の見直し、学生教材の変更など将来に向けての新しい展望を立てることができた。</p> <p>学内に「コロナウイルス対策委員会」を2020年3月に設置し、情報収集・感染対策・資材調達・注意喚起・罹患後の対処法なども含めてコロナ対策を推進した。全教職員の一致団結のもと、学内での感染者(クラスター)が出ない1年を過ごすことができた。休校することなく所定の授業時間を確保できたことは評価できる。</p>		

項目 3	教育活動		
【現状】	8	各コースのカリキュラムは目標が設定されているか、また体系的に編成されているか	各コース、学年での教育到達レベルが設定されており、そこに到達するためのカリキュラムが体系的に編成されている。カリキュラム内容については日々活発に意見が交換されており、2020年度も見直しを行った。各科目について「授業のねらい」「到達目標」「授業の計画展開」「評価方法」などで構成される授業シラバスを作成し、公開している。
	9	教育方法は適正か、また授業評価の実施・評価体制はあるか	教育方法(個人の指導力に対する評価)については「ティーチング・アセスメント」を導入し、実際の授業を見学、改善点を指摘し相互評価を行った。また授業評価に関しては、学生による授業評価アンケートを9月に実施し、学生の評価を教員にフィードバックした。
	10	育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	学内に教育顧問の職責をもった教員をおいている。
	11	教員組織体制が確立しているか、また教員間の連携・協力体制を構築しているか	学校長以下、教育部長、学科長が教員組織を取りまとめており、組織図を共有して指揮命令系統を明確にしている。カリキュラムの交流、学校行事ごとの分科会などを通じて、教員間の連携・協力体制は整っている。
	12	成績評価や進級・卒業認定の基準は明確になっているか	学則にて明記されており、学生ハンドブックにて周知している。進級・卒業認定は、科目履修状況、出席率、授業態度、成績を総合的に判断し、学校長以下教職員の判定会議にて認定されている。
	13	資格取得の指導体制はあるか	学生および教員自身の資格取得に際する指導体制は整っている。今年度はコロナ禍により、資格試験自体を見送る事が多かったが、実施された「貴金属装身具技能検定 3級」の取得に向けて、対策ゼミを放課後に実施。希望者77名の指導に当たった。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p><自己点検> コロナ禍により学校全体でイベントなどの自粛を取り決めた。各種セミナー、学園祭、就職イベント、研修旅行などを行うことが一切できなかった。その中でも学生が学びの機会を失わないよう、一部をオンライン化して実施した。(学園祭・ワークショップなど) そのための教職員の努力は一定の成果を収め、学生の満足度は総じて高かった。</p> <p><課題・今後の改善方策等> 今回実施を断念したプログラムにおいても、今後はオンライン上での実施の可能性を検討していく必要がある。その際、コロナ収束後のことも見据えてプログラムをハイブリットにしておく必要があると考える。</p>		

項目 4	学修成果	
【現状】	14	就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか 2021年3月31日現在、全学科平均の求職者就職率は99.2%(昨99.2%)だった。コロナ禍ではあったが、非常に高い結果を残すことができた。
	15	資格取得率の向上が図られているか コロナ禍により、例年実施している資格(検定)試験はほぼ中止となった。その中で「貴金属装身具製作技能検定」は3級のみの実施があり、合格率68%(昨56%)だった。東京都の平均合格率は62%(昨52%)で、平均を大きく上回る結果となった。ウォッチコースの「時計修理技能士検定」については、筆記は実施したものの実技が中止となり、合否結果は出なかった。
	16	在校生・卒業生の社会的な活躍及び評価を把握しているか 在校生に対しては外部の各種コンテストや発表会・展示会などに参加することを奨励し、卒業生に関しては、同窓会や教員、教務進路職員との関係を通じ、その活躍の把握に努めることとしている。在校生・卒業生の実績は「入学案内」やホームページなどで常に紹介し、在校生の学習意欲の向上や、卒業生への情報発信、入学検討者等への学校PRに役立っている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>コロナ禍における学生の学習成果は、当初最も憂慮した点であったが、その結果、例年とさほどの違いはなかったと言える。罹患者による休校などで規定の授業時間数が確保できない場合に備え、学習成果を2年間で計ることを学生に告知したが、学生の学習成果にさほど変化はなかった。ただ、就職に関しては最終的には例年に近い内定数を獲得できたが、厳しい一年であった。</p> <p><課題・今後の改善方策等> オンラインでのコミュニケーションが多くなる中、学生のモチベーションが落ちないようにケアすることが重要になってくる。特に留学生対応は自国との環境の違いが、就学の障害にならないようにするべきであると考え。</p>	

項目 5	学生支援		
【現状】	17	就職・進学指導に関する体制は整備されているか	教員・教務と進路が連動することで、より良い学生指導を行っている。進路指導についてはキャリアガイダンスを卒業前年度11月から実施し、業界知識や業種職種研究、求められる人材像の説明および自己分析を指導した。企業就職希望者に対しては、3月以降に就職活動のための具体的なノウハウ指導を行うと同時に、専用のWEBサイトにおいて求人公開を行った。コロナ禍という状況において、オンラインを利用した面接の指導や就職相談を行い、新しい様式への対応が進んだ。
	18	中途退学者が継続して学びたい場合の支援体制、または代替えコースが設置されているか	ジュエリーの途中退学者に対しては、キャリアスクール(付帯教育、昼夜、時間登録制)への転校を進めている。一部の退学者は、授業単価も割安で、提出期限のない課題を自分のペースで学べるこのコースを選択する場合もある。ウォッチは4月開講のキャリアスクール(夜)を運営しており、3月で進級不可等による中途退学の場合は、同様にキャリアスクールでの再受講を促している。シューズ・バッグのコースには再受講コースが存在しない。専門課程での再受講を希望した場合、途中退学・除籍者であっても、再入学の資格を認めており、試験等で合格すれば、再入学を認めることにしている。2020年度は、ウォッチを退学しジュエリーに再入学する学生が1名いた。
	19	学生相談に関する体制は整備されているか	従来通りクラス担任と学科担当教務の連携による学生の就学指導は良く機能している。また、学生が学校長に直接意見をメールできる制度の運用などを通し、より細かい学生の相談体制を構築している。
	20	学生の経済的側面に対する支援体制が整備されているか	2020年度より高等教育修学支援新制度(学費無償化)を利用できることとなった。その他、日本学生支援機構等の公的奨学金や、家計の急変・転科による就学年数延長者に対しての水野学園独自の授業料減免制度などを設置運用している。また、学費の分納、延納などに対しても、学費相談担当者が学生個々の状況に応じて対応している。
	21	学生の健康管理を担う組織体制が整備されているか	学校保健法に基づき、5月に学内において全学生の健康診断を実施した。診断結果が悪かった学生には、健康管理について個別に案内・指導している。また、学内においての学生の急な傷病に対しても、保健室やAED装置の設置をはじめ、救急箱の完備や緊急搬送医院の一覧マニュアルなども完備している。
	22	保護者と適切に連携しているか	2020年度も、8月と11月に、学生の出席率、課題提出状況、単位取得状況を、担任の個別コメントを添えて保護者に送付した。この際、保護者に学園全体の教育内容などについて理解を深めてもらうことを目的に「水野学園通信」という小冊子を作成し同封している。また、本年は水野学園全校合同で、学科ごとの授業成果を学生が発表する「プレゼンテーションズ」を開催。保護者にもオンラインで配信した。
	23	卒業生への支援体制はあるか	卒業生は全員水野学園同窓会の終身会員として登録され、転職相談や進学等についての支援を受けることができる。また、優秀な卒業生に対しては、「同窓会賞」として、独立開業や再進学のための報奨制度も制定されている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>上記のとおり、学生支援体制は整備されていると評価している。</p> <p>特に高等教育修学支援新制度(学費無償化)は、専門学校の初年度認定率が62%(2713校中4168校)だった。毎年の確認申請が必要な制度であるため、継続して学生支援ができる環境を整えていきたい。</p> <p>今年度は「水野学園奨学金規程」に準じ、コロナによる家計急変者を救済するための奨学金を特別に設置し学生支援を行った。今後も社会の動向を考慮し必要に応じた学生支援が必要と考える。</p>		

項目 6	教育環境		
【現状】	24	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	施設・設備の改修／修繕／交換／導入は年度ごとに計画的に整備をしている。各教室ごとの責任者を決め、常に点検している。教室以外の施設として、図書室・学生ホールなどの環境を整えており、年1回の学生アンケートの実施を活用し改善に努めている。学生への伝達ツールとして学生アプリを導入した。伝達事項は、確認の有無まで把握でき、よりスムーズに行えるようになった。
	25	学外学習やインターンシップなどの教育体制を整備しているか	本年度はコロナ禍により、限定的な活動に留まらざるを得なかった。 [2020年度実績] ウオッチ=ブライトリング・ジャパン スタジオ見学(オンライン) ウオッチ=リシュモンジャパン カスタマーサービス見学(オンライン) シューズ=ムーンスター加硫製法(オンライン研修)、 シューズ=リーガル資料館見学(訪問) バッグ=浅草・浅草橋案内
	26	防災に対する体制は整備されているか	学生対象／教職員対象の2種類の防災訓練を毎年実施。教職員対象の防災訓練においては、災害発生直後から宿泊するまでを想定した実践的な訓練を行っている。防災マニュアルの作成・完備や緊急地震速報に対応したシステムの設置、5日分の非常食を完備するなど、防災体制を整えている。コロナという災害に面し、備蓄していた不織布マスクを教職員に配付することができた。「手指用消毒材」「設備用消毒剤」「手洗い用石鹼液」などの消耗品や、「非接触体温計」「サーモカメラ」などを導入し、学内の感染拡大防止に努めた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>学校の教育環境は大きく変わった。予定していた学生伝達のアプリケーションにより、学生の情報収集が一本化され、伝達に即時性が生まれた。また、オンライン授業により大阪校との共同授業、海外作家や教育者によるオンライン授業、また、異なるコース間での合同授業などが一気に可能となった。自粛が余儀なくされ、学外での学習が制限される中、新しい学びの場が増えたことも事実である。</p> <p>今後は教育インフラをさらに整備していくことが必要と考える。新しい学びの場が増えたことを前向きに考え、学生により良い教育環境を提供していくことが必要と考える。</p>		

項目 7	学生の募集と受け入れ		
【現状】	27	学生募集活動は、適正に行われているか	募集案内の記載内容については学生が明瞭に理解できるよう十分に配慮して作成している。募集内容は、稟議を経て理事長、学校長の決裁を受けて作成されているものであり、学内でのチェック体制は整備されている。資料請求者、入学志願者の相談内容はデータ管理され、個人情報に留意しつつ、適切な対応ができる体制が整っている。
	28	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	AO入学については全員と面接、推薦入学および一般入学については入学願書・調査書の内容により、どちらも本校で学習することに対する意思の確かさ、粘り強く物事にとり組める姿勢を出願者の選考基準としている。留学生については全員と面接を実施し、日本語能力・学費等支払い能力を総合的に判断する。
	29	学納金は妥当なものとなっているか	本校が提供する教育内容、施設等や他校の状況、社会全体の経済状況等を踏まえ、妥当な金額であると考えている。金額および支払時期については募集要項に明記している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>コロナ禍ではあったが、例年通り、適正に実施されていると評価している。</p> <p>コロナ禍の状況により、入学者向けイベントは「オンライン型」を充実させ、来校しなくても学校を知っていただくイベントを毎月開催した。AO入試に関しても、「オンライン面接」を実施し、コロナ感染のリスク回避に加え遠方者にもプラスになると考えており、継続して行くこととした。</p>		

項目 8	財務		
【現状】	30	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	高等教育修学支援新制度や学園独自の奨学金制度等により、入学者の確保や休退学などの離脱者を減らすことで安定的な収入を確保し、健全な財務状況を維持している。将来10年程度の見込みについて随時分析している。
	31	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	予算は、前年度末に翌年の予算案を作成し、理事長・学校長の決済を受けた上で、評議委員会・理事会の承認を受けて決定している。本部各部門の責任者は、承認・決裁を受けた予算に基づき、各部門の年度計画を定め、理事長、学校長の承認を受けて、予算を管理・執行している。
	32	財務について会計監査が適正におこなわれているか	顧問税理士の指導をうけながら適正な会計処理を行っている。2020年度も5月に、監事2名による会計監査を行った。
	33	財務情報公開の体制整備はできているか	財務情報は学園ホームページにて公開している。関係者より財務諸表等の閲覧請求があった場合は、閲覧規定に則った対応ができる体制を整えている。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	上記のとおり、適正に管理・運営されていると評価している。		

項目 9	法令等の遵守		
【現状】	34	関係法令・設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか、また個人情報保護に関して十分な対策が練られているか	給与規程、個人情報保護規程、文書保存規程など、各規程に則り、法令順守についての総合的な管理にあたっている。前述規程等は、常時閲覧できる場所に保管し、適宜確認・利用できる環境を整えている。 顧問弁護士と契約しており、随時相談可能な体制を整えている。 個人情報保護に関しては、個人情報保護規程を全教職員へ説明し、この規程に則って運用している。また、マイナンバーについても、特定個人情報取扱規程を策定し、適正に運用している。
	35	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価委員会を設置し、問題点の改善に努めている。
	36	学校関係者評価委員会を実施しその結果を公開しているか	毎年、「自己点検・自己評価報告書」を元に、学校関係者評価委員会を開催し、その結果をHP上で公開している。
	37	教育情報の公開は適正に行われているか	前述の各報告書のほか、「学校情報」を各年度ごとに更新し、HP上で公開している。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>例年通り、適正に実施されていると評価してる。</p> <p>学校教育法、私立学校法、学校保健法、税法等の法令を遵守して学校運営が適正に行われている。 自己点検・自己評価報告書、学校関係者評価委員会議事録、学校情報は、毎年ホームページにて公開することとしている。</p>		

項目 10	社会貢献		
【現状】	38	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	コロナ禍の中、オンラインにて学園祭「MUG」を行った。オンライン開催のため沖縄や海外からのアクセスなどを含め、約850アカウントの入場があった。 《技術講習会・社員教育を実施した関連団体・企業様一覧》 日本時計輸入協会様／LVMHウォッチ・ジュエリージャパン様／香港貿易発展局様
	39	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	ボランティア情報を収集し、ポスターを制作して学内に掲示し、社会貢献への取り組みを学生に奨励できた。
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>社会との接点が最小限になった今年、社会貢献の機会を作る事は至難であった。</p> <p>各コースで例年実施していた企業様向け社員研修などは大幅に縮小せざるを得なかった。一方、SDGsなどの理解を通して、ものづくりの立場からの社会貢献の意義を教育する機会は増えた。学生の社会貢献の意識は高くなっている。</p>		

項目 11	国際交流	
【現状】	40	<p>留学生の受入れ・在籍管理等において適切な管理体制が整備されているか</p> <p>教務進路課内に「留学生センター」を設置し、入学相談室留学生担当と連携のもと、在学する全留学生の在留資格管理をはじめ、資格外活動(アルバイト)状況の把握などに努めている。本年度はコロナ禍により取次申請は中止した。ただし、適切な管理は継続されており、2020年度も東京出入国在留管理局より「適正校」の認定を受けている。</p>
	41	<p>グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みが行われているか</p> <p>今年度はコロナ禍により、外国人アーティスト等の招聘ができなかったが、オンラインを駆使してセミナーや工房訪問、ワークショップを開催し、国際的な視野・感性を養うことができた。 2020年度の実績は以下の通り。 [イタリア]チェーザレ・メイニ氏 ジュエリーブランド、工房紹介 [ベルギー]ネダ・エル・アスマー氏 アントワープ王立芸術大学教授 [スイス]ジュー溪谷 時計ブランド工房紹介 [アメリカ]ダイアン・ベッカー氏 伊在住のクリエイティブコンサルタント、アドバイザー [スペイン]ノルマン・ヴィラルタ氏 シューズブランド、工房紹介 [スイス]ジャガールクルト社 ミュージアム見学 また、毎年恒例となっている海外大学の交換留学については中止とした。</p>
【自己点検・課題・今後の改善方策等】	<p>留学生の在籍管理は適正に実施されていると評価して。海外からの招聘作家などによる、毎年実施してきた対面型ワークショップなどは全て中止。しかしながら、一部オンライン対応にして無料で学生に提供することができた。受け入れ人数に限界があることや、時差の関係から夕方6時以降に実施するなど、異例なケースであったが講師との親密な関係を築くこともできた。</p> <p>今後も継続する意向である。</p>	